

# 保健所・市町村実習における実習前演習による実習イメージ化と自信獲得

前田 則子, 徳永 龍子

## 要 旨

本研究の目的は、保健所・市町村実習の実習前演習を受講した学生の学修過程を明らかにすることである。保健所・市町村実習終了後に、実習前演習が実践で役だった内容・応用できた内容と「ひとりで実施できる」に至るまでの変化の気づきについて調査を行った。研究対象者は、平成21年2月および9月、平成22年2月および9月に保健所・市町村実習を行った学生106名のうち、研究参加の同意を得られた97名である。

家庭訪問の実習前演習では、97名中86名(89%)が、「役だった」「少し役だった」と回答していた。自由記述からは、【家庭訪問場面のイメージ化】で、次いで【自分の傾向に気づく・自己理解】、【訪問ケースの複雑化と実習できる内容との差】、【意欲】の4つのカテゴリーが抽出された。また、保健師の同行訪問より、【保健師の専門性】、【住民の気持ちに寄り添う援助姿勢】、【住民の主体的な力を引き出す働きかけ】、【信頼関係の構築】の4つが抽出された。健康教育の実習前演習では、97名中92名(95%)が、「役立った」「少し役だった」と回答した。自由記述からは、【完成度の向上】で、次いで【気持ちの余裕】、【学びの深まり】、【現場と実践可能な健康教育内容との差】の4つのカテゴリーが抽出された。

実習前演習により、安心感を得て住民の生活の場へ入り、保健指導の諸活動の実際から学び、自信を持ってひとりで実施できる状態で実習に臨むことができたと考ええる。

**キーワード：**保健所・市町村実習、保健師、実習前演習、到達度

## I. 緒 言

保健師は、個人、家族、組織、地域などの幅広い対象に対して、家庭訪問等の個別支援や、健康教育などの集団支援を行い、地域の健康を育み守る役割がある。保健師の基礎教育は現場で働く保健師としての基本的な知識や技術・態度を涵養するのが目的である<sup>1)</sup>。なかでも家庭訪問や健康教育による支援は、保健師の国家試験受験資格を得るために必要な技術の卒業時の到達度として、「ひとりで実施できる」となっている<sup>2)</sup>。本学では、平成21年度から家庭訪問と健康教育の実習前演習を表1のように形態化し、到達度に全員が到達すべく保健指導技術の向上を図ってきた。

本研究の目的は、この保健所・市町村実習の実習前演習を受講した学生が、実習終了時に記述した内容から、実習前演習の知識と健康教育・家庭訪問の技術の学びを地域の、実践のなかで統合し、役だった内容、応用できた内容と「ひとりで実施できる」への変化の気づきについて授業評価表の内容から分析する。実習前演習の学修過程を明らかにすることで、今後の実習前演習および教育内容への知見を得ること

とを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象者

研究対象者は、平成21年2月および9月、平成22年2月および9月に保健所・市町村実習を行った学生106名のうち、研究参加の同意を得られた97名である。

### 2. データ収集方法

保健所・市町村実習終了後、実習前演習についての授業評価表を配布した。実習前演習が、実習時の家庭訪問に役だったかについては、「役だった」、「少し役だった」、「あまり役だたなかった」、「全く役にたたなかった」の4件法で求め、そのように思った理由について、自由記述で求めた。また、保健師との同行訪問で学んだことについて自由記述で求めた。実習前演習が実習時の健康教育発表に役だったかについては、「役だった」、「少し役だった」、「あまり役だたなかった」、「全く役にたたなかった」、の4件法で求め、そのように思った理由について、自由記述で求めた。

### 3. データ分析方法

自由記述から、学生の学びや気づきとして記述していると思われるものについて抽出し、同義の内容

をカテゴリーとして分類し分析した。

#### 4. 倫理的配慮

質問紙調査の趣旨および、承諾は自由意志であることを文書および口頭で説明し同意を得た。また、研究以外の目的では使用しないこと、個人が特定されることはないことを説明した。質問紙を配布し回収箱にて回収した。調査に回答が得られたものを同意が得られたとみなした。

表 1. 保健所・市町村実習実習前演習の形態

	演習の到達目標と進行
1 目 目 目 目 目	<p>健康教育 ①地区活動の中での健康教育の位置づけ、種別、対象、方法を理解する。 ②健康教育の企画・実施・評価のプロセスを体験する。 ③地区住民の自己管理能力を引き出し、必要な保健行動を実施する健康教育への動機づけ、教育的働きかけの基本的技術を学ぶとともにチームメンバーとしての保健師の役割を学ぶ。</p> <p>演習内容 健康教育の企画書・指導案作成、媒体づくり、学生間で発表</p>
4 目 目 目 目 目	<p>家庭訪問 ①訪問時の事例、家族の身体的、心理的、社会的状況、生活状況の観察が出来る。 ②観察のポイント、指導のポイントを学ぶ。 ③訪問対象に合った具体的、実際の援助方法が理解できる。</p> <p>演習内容 家庭訪問事例設定および看護計画立案、ロールプレイングの実施（保健師役、住民役を交互に演じ、他のグループメンバーがチェッカーとなり評価する）。</p>

### Ⅲ. 結 果

アンケートに協力が得られた学生は、平成 21 年 2 月に実習を行った 24 名（回収率 96%）、平成 21 年 9 月に実習を行った 26 名（回収率 87%）、平成 22 年 2 月に実習を行った 25 名（回収率 96%）、平成 22 年 9 月に実習を行った 22 名（回収率 88%）であった。

#### 1. 家庭訪問の実習前演習の授業評価の分析

##### 1) 家庭訪問の実習前演習の役立ち度の授業評価

平成 21 年 2 月に実習を行った学生では、24 名中 21 名（88%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成 21 年 9 月に実習を行った学生では、26 名中 24 名（92%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成 22 年 2 月に実習を行った学生では、25 名中 24 名（96%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成 22 年 9 月に実習を行った学生では、22 名中 17 名（77%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。

全体では、家庭訪問は、97 名中 86 名（87%）が、「役だった」「少し役だった」と回答していた。あまり役にたたなかったと回答した 10%については、実習で家庭訪問の機会がなかったことを理由にあげている。

##### 2) 家庭訪問の自由記述の内容分類

###### (1) 家庭訪問場面の実習前演習での学び

家庭訪問場面の実習前演習についての学びの自由記述を分析したところ、4つのカテゴリーと 23 のサブカテゴリーが抽出された（表 2）。

自由記述の件数が一番多かった項目は【家庭訪問場面のイメージ化】で、次いで【自分の傾向に気づく、自己理解】、【訪問ケースの複雑化と実習できる内容との差】、【意欲と視点】であった。

表 2. 家庭訪問場面の実習前演習における学びの内容分類

<b>家庭訪問場面のイメージ化 62 件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな言葉を使えばいいか、どんなことを聞いたり伝えることが必要かイメージすることができた</li> <li>イメージすることで余裕を持って臨めた</li> <li>挨拶や、道具の使い方などイメージできた</li> <li>保健師としての家庭訪問というものがどういうものかイメージできた</li> <li>ある程度わかっていないと何も手につかないと感じた</li> <li>思い描いていた家庭訪問と違うことがわかった</li> <li>礼儀作法やマナーが身についた</li> </ul>
<b>自分の傾向に気づく、自己理解 23 件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>出来ているつもりでも注意されないと出来ないところが多いし、自分がどのように行動すべきかわかった</li> <li>何もしないで行ったら何もできなかったと思う</li> <li>実際の訪問は親しみやすい感じだったが、自分が堅苦しくするのがわかり申し訳なかった</li> <li>自分の立ち振る舞いの傾向がわかった</li> <li>自分の悪いところを正すことができた</li> <li>保健指導や観察項目に気づくことができた</li> </ul>
<b>訪問ケースの複雑化と実習できる内容との差 16 件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>何度も相談を行っている保健師さんにしかわからない内容だった</li> <li>自分で実施できる場面が挨拶しかなかった</li> <li>保健師さんが主体的にしたので黙って話を聞いているだけだった</li> <li>家庭訪問の対象が演習とは違った</li> <li>家庭訪問に行っていない</li> <li>ハイリスクの事例で行くことができなかった</li> <li>実際の訪問は玄関先までで部屋の中まで入れなか</li> </ul>

った ・保健師と訪問していない
<b>意欲と視点 3件</b>
・どこに視点を置いてみたらいいか、保健師の視点がわかった ・具体的な計画立案で意欲が向上した

## (2) 保健師との同行訪問での学び

保健師との同行訪問から得られた学びについての自由記述を分析したところ、4つのカテゴリーと19のサブカテゴリーに分類された（表3）

自由記述が一番多かった件数は、【保健師の専門性】で、次いで【住民の気持ちに寄り添う援助姿勢】、【住民の主体的な力を引き出す働きかけ】、【信頼関係の構築】であった。

表 3. 保健師との同行訪問から得られた学びの内容分類

<b>保健師の専門性 55名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も訪問することで、親身になって話をきくことの大切さを肌で感じて学んだ</li> <li>・地域のことを知っておく必要があるのだとわかった</li> <li>・保健師独自の仕事内容、役割がわかった</li> <li>・地域の人とつながりができていて、対象を地域全体でみることができていた</li> <li>・傾聴だけでなく、セルフケア能力を高める言葉かけがすごいと思った</li> <li>・制度、事業、法律等をよく理解しておくことが大事だとわかった</li> <li>・何気ない会話のなかで、その場でアドバイスしていたので、幅広い知識が必要だと思った</li> <li>・保健師という職業は、いろいろなところにネットワークを張り巡らせて、どれだけ情報をもっているかが大切なんだと思った</li> <li>・保健師の対象が、家族全員に向けられていたり、幅広い視野で対象を捉えていたのがとても印象的だった</li> </ul>
<b>住民の気持ちに寄り添う援助姿勢 16名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師さんの態度が、温かみがあり親しみやすい雰囲気がいいなと思いました</li> <li>・家族との会話から、共感する態度、一緒に子育てをがんばっていこうという態度を学ぶことができた</li> <li>・住民が地域で安心して生活できるような関わり</li> <li>・相手に合わせた受け答えの大切さを学んだ</li> <li>・対象の思いをどのように引き出すか、悩みに対しての対応の仕方を学んだ</li> </ul>
<b>住民の主体的な力を引き出す働きかけ 7名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の行動や思いを保健師さんが一緒に振り返りながら、対象者が客観的に考えられるように援助する姿が印象的だった</li> </ul>

- ・できていることを認め自信につなげていく援助が大切だと学んだ

<b>信頼関係の構築 6名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の持つ雰囲気によって、母親が相談できるかどうか左右されると思った</li> <li>・知識も大切だが、その人を思う気持ちが大切と学び感じた</li> <li>・家のなかに人を入れるのは信頼関係が成り立っている証拠だと思う。対象者の信頼を得ることが訪問では大切と感じた</li> </ul>

## 2. 健康教育の実習前演習の授業評価の分析

### 1) 健康教育の実習前演習の役立ち度の授業評価

平成21年2月に実習を行った学生では、24名中22名（92%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成21年9月に実習を行った学生では、26名中24名（92%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成22年2月に実習を行った学生では、25名中24名（96%）が「役だった」「少し役だった」と回答した。平成22年9月に実習を行った学生では、22名中22名（100%）が「役立った」「少し役だった」と回答した。

全体では、健康教育は、97名中92名（95%）が、「役立った」「少し役だった」と回答し、5名は実習内容が変更となり「あまり役だたなかった」と回答した。

### 2) 健康教育の実習前演習での学び

健康教育の実習前演習から得られた学びについての自由記述を分析したところ、4つのカテゴリーと21のサブカテゴリーが抽出された（表4）

自由記述が一番多かった件数は、【完成度の向上】で、次いで【気持ちの余裕】、【学びの深まり】、【現場と実践可能な健康教育内容との差】であった。

表 4. 健康教育の実習前演習から得られた学びの内容分類

<b>完成度の向上 46名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験することによるイメージ化、アイデアなどさらなる工夫</li> <li>・本番に向けての修正や、流れの把握などの見直し</li> <li>・実際に学生同士反応をみたり、アドバイスをし合うことによるよりよい健康教育の作成</li> <li>・本番では、よりわかりやすく相手に伝えることができた</li> <li>・対象に理解してもらえるように、方法などをギリギリまで練ることができた</li> <li>・みんなから、指摘やアドバイスをもらって改善策が立てられる</li> <li>・声の大きさ、スピード、媒体のわかりやすさ、時間</li> </ul>

配分を見直せた
<b>気持ちの余裕 26名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本番のスムーズな進行。対象者の反応もみる余裕あり</li> <li>・気持ちの落ち着き</li> <li>・自分自身の教育の内容の深まり。他の知識も身につけることができ、突然の「フリ」にも応える余裕ができた</li> <li>・事前に準備ができていて、直前にあわてたり、あせりが少なく済んだ</li> <li>・事前に基盤ができていたことによるスムーズな頭づくり</li> <li>・受け手の反応まで考える余裕</li> </ul>
<b>学びの深まり 23名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの良い点悪い点を知る</li> <li>・相手の反応など自分たちでは気づけなかったところへの気づき</li> <li>・他校ではないらしく、貴重な学び</li> <li>・第三者評価の視点</li> </ul>
<b>現場と実践可能な健康教育内容との差 6名</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習では、演習でやった内容と大きく変わったから</li> <li>・本番の対象者と異なる部分があり、活用できないところがあった</li> </ul>

#### IV. 考 察

##### 1. 家庭訪問の実習前演習における学生の学び

保健師は、看護を基盤として公衆衛生の理念や学問を背景とした専門職であり、子どもから高齢者まで地域住民の健康を守るために、在宅療養者への支援を含め、主に健康増進と疾病予防に従事している<sup>3)</sup>。専門技術職として、備えるべきものは知識であり、技術である。技術は経験を積みねば熟練しないが、最低の基準や技術は卒業時に修得しておく必要がある<sup>4)5)</sup>。そのため、本学の保健所・市町村実習も、住民の生活の場へ入り、保健指導の諸活動からの学びを重要視している。さらに、保健師における地区活動の実践を知り、地区活動を実践できる資質を養うことを保健所・市町村実習のねらいとしている。

今回、実習前演習を通して学生が学んだ家庭訪問における保健指導項目では、「家庭訪問場面のイメージ化」が図れたことが一番多かった。このことは、一住民としても保健師と関わる機会の少ない年代である学生にとって、実習前に保健師による保健活動の実践を想像するのは困難なことを示している。これは実習前に行った事前演習の学生反省会および授業後のアンケートでわかったことである。そのため、実習前演習として、家庭訪問場面のロールプレイングを行うことにより家庭訪問場面のイメージ化が図れ、家庭訪問実習を行った全員が安心感を得て、自信を

もって実習に臨むことができた。

次に多い「自分の傾向に気づく、自己理解」では、礼儀作法、話し方の特徴、髪を触るくせなど、普段の自分の傾向や看護者としてのあるべき姿に気づくことができた。

一方、近年の健康課題の複雑化、深刻化から、家庭訪問を実習すること自体が難しい状況にあり、6名の学生が「自分が実施できる場面が挨拶しかなかった」「家庭訪問に行っていない」と答えている。これは、訪問ケースの複雑・深刻化のため実習できる内容が限定されたり、訪問対象者からの同意が得られにくくなっている。学生のなかには、学内での実習前演習のみで家庭訪問の体験が終了する者も出てきている。したがって、今後は実習前演習の内容を、母子、成人、高齢者などの異なる特性を有する事例を組み合わせ、より発展的なものにしていく必要があると思われる。

保健師との同行訪問では、【保健師の専門性】、【住民の気持ちに寄り添う援助姿勢】、【住民の主体的な力を引き出す働きかけ】、【信頼関係の構築】などの学びが得られたことは、対象のヘルスニーズを捉え、セルフケア能力を向上させるという家庭訪問の実習目標を学生がしっかり捉え同行訪問したことが伺える。

##### 2. 健康教育の実習前演習における学生の学び

健康教育の実習前演習の学びでは、学生間で指摘やアドバイスを受け、声の大きさ、スピード、媒体のわかりやすさ、時間配分などの具体的な改善策への気づきがあり、本番に向け、より完成度を上げることができたと先行研究と同様<sup>6)</sup> 全員が答えている。健康教育実施まで1か月以上の余裕を持ち、担当保健師のアドバイスも盛り込み十分時間をかけて準備した結果といえる。また、学生間で集団教育場面を、保健師側・住民側と複数回体験することで、気持ちに余裕ができ、対象からの質問を想定し、やりとりの場面を入れるなど、双方向性のある健康教育に仕上げるができている。このことは、集団指導を実施するという体験にとどまらず、対象理解をした上で、対象にわかりやすく伝える方法、対象に合った健康教育の工夫につながったと思われる。他に6名が、現場と実践可能な健康教育内容に差があったと回答している。これは、実習期間内に準備した健康教育を実践する事業計画が入っていないことによるものである。平成23年度からは、実践看護学演習という科目が加わった。コミュニティーケア理論で地域保健診断を行い、健康課題を抽出した上で、実践看護学演習で、健康教育、家庭訪問のテーマを決めて演習をするという教育形態に改善する。実習計画を立案、実施、評価する学習の体系化により、主体

的学習を展開することで、「ひとりでできる」到達度への問題は解決すると考える。

## V. 謝 辞

本研究にあたり、御協力いただいた学生の皆様に心から感謝いたします。

## 引用・参考文献

- 1) 奥山則子：「保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望」：(6)「保健師教育のミニマムクワイアメンツ（必要最小限の教育内容）とは」，日本公衆衛生雑誌 57(2)：135-143, 2010.
- 2) 前掲に同じ
- 3) 佐伯和子：「保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望」：(4) 実践能力の構造に基づく保健師教育のカリキュラム：高度専門職業人の養成，日本公衆衛生雑誌 56(12)：897-901, 2009.
- 4) 小山田恭子：保健師免許の質を保証する教育体系：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 ―第一次報告の概要―，保健の科学 51(10)：652-655, 2009.
- 5) 岡本玲子：日本地域看護学会の発展と課題：保健師免許教育の質保証 ―課題と方向性―，保健の科学 52(9)：603-609, 2010.
- 6) 藤井智恵子，多田敏子，岡久玲子，松下恭子，片岡三佳，千葉進一：大学生の地域看護学実習における健康教育からの学びの一例，第31回全国地域保健師学術研究会講演集：196-197, 2010.

## Visualization of practicum experiences and gains in confidence from pre-practicum exercises in a public health center practice.

Noriko Maeda, Ryuko Tokunaga

Department of Nutrition, Faculty of Nursing and Nutrition,  
Kagoshima Immaculate Heart University

Key Words: a public health center practice, health nurse, pre-practicum exercises, rates of achievement

### Abstract

The present research aimed at exploring the course of study for students who underwent pre-practicum exercises in community care practice. A survey was conducted on the content of pre-practicum exercises that were used and proved helpful in practice, and the participants' internal processes toward "individually administrable practices." The study sample consisted of 95 students who had provided consent to participate out of 106 students who conducted in a public health center practice during February and September of 2009 and 2010.

Out of 97 participants, 86 (89%) reported that pre-practicum home visitations exercises were "helpful" or "somewhat helpful." The following four categories were derived from free response items: "visualization of home visitation situations," "realization of personal tendencies/understanding of self," "gap between practicum content and the complexity of visitation cases," and "motivation." In addition, their responses to visitations accompanied by a health nurse yielded "professional skills of health nurses," "supportive positions that are aligned with the feelings of residents," "working to increase the independence of residents," and "building trusting relationships." Pre-practicum health education was reported as "helpful" or "somewhat helpful" by 92 out of 97 participants (95%). Free responses yielded "improved completion rates," "extent of feeling comfortable," "depth of learning," and "gap between content of health education and what is possible in practice and in the field."

It is suggested that pre-practicum exercises afforded participants a sense of comfort, permitted them to enter the lives of residents, and learn from actual health guidance activities. In addition, the exercises may have led participants to have confidence in conducting practice independently, enabling them to be well prepared for practicum experiences.

---